



ひと 明日へ



ワンストップ解決を目指す 「あんしんサポートセンター」

平成27年度全国社会福祉協議会会長表彰を受賞

西和賀町社会福祉協議会
高橋 純一 事務局長

支援を必要とする人がもれなくカバーされるような社協事業を展開してきました。現在の状況を。

西和賀町は過疎と少子高齢化（※現在の高齢化率は約44%、世帯数は約2,370世帯、うち一人暮らしは336人）の中で、広範な地域に

住民が点在しており、限界集落化する地区もあります。こうした中で高齢者や障がい者に必要な支援システムを模索し、支えあいの基盤づくりを進めてきました。

基盤づくりの取組みは、厚生労働省モデル事業「安心生活創造事業」（平成21年～25年）と、県社協の「市町村モデル事業」（※新たな地域支え合いシステム創生事業）とを運動させ、地区ごとに直面する生活課題を把握しながら、さまざまな事業を創出しました。

一例としては、高齢者らの不便をサポートする「アクション大舞応」、高齢者の買い物支援「まじころ宅急便」、見守りシステム「絆ーONE」等があげられるほか、以前からの地域型サロン「ウンダナサロン」、雪かき支援「スノーバスターーズ」などの事業は定着しています。

昨年4月に高齢者等が直面する生活全般の課題を支えるために「あんしんサポートセンター」を立ち上げました。対応や課題をお聞かせください。

まず、住まい、医療、予防、生活支援を一体的に提供する仕組み、イコール「地域包括ケアシステム」を構築するには、これまでの分野別の相談体制や事業ごとの支援のあり方では、広範かつ複雑多様化する生活課題への対応は、大変に難しかるものがありました。

ひと言で連携とはいいうものの、各機関ごとの対応では、ともすれば「た

らい回し」的な対応に終始するケースも見られ、「ワンストップ解決」にはなかなか至らない現実がありました。生活困窮者自立支援法の施行に伴って、「自立相談支援事業」に取組んでいますが、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしこそれる」ようサポートするには、総合相談・生活支援全般に、横断的かつフルワーク良く取組む仕組みが必要でした。そのため小さなことにもきちんと対応し、社協だからこそできる身の丈にあった運営を第一に、「あんしんサポートセンター（※高橋事務局長がセンター長兼務）」を社協内に立ち上げました。

立ち上げから約一年近くが経過しますが、生活困窮者自立相談支援事業との関わりの深いケースも見受けられています。極めて些細な日常生活上の不安や課題が、やがて大きな問題に発展するだらうと思われる事案も少なくありません。

特に、従前からあった「困ったなあ」「どうしたらいいのか」といった事案を、可能な限り細かく分析し、分解し、掘り下げ、個別的に突き詰めていくことで、ささやかな解決糸口のようなものが見えてきます。「諦め」を「希望」に変える対応事例も見受けられています。

目的に沿った成果はあったと手ごたえを感じているところであり、可能な限りワンストップでの解決を目指して、引き続き取組んでいきたい

の振興などを通じて、住民相互の助け合いの機運を醸成し、災害にも備えた安全安心なコミュニティの形成を促進すること」、「一、社会福祉事業者の経営基盤の強化や、福祉・介護人材の養成・確保を進め、福祉サービスの質の向上を図ること」、「二、福祉分野のみならず、医療・保健・教育・労働など、多種多様な分野の組織・機関等とのネットワークを強化し、より多様なサービスの提供や活動の展開ができるよう努めること」を採択し、閉会しました。

全国社会福祉大会の開催

平成27年度全国社会福祉大会が11月20日に日比谷公会堂（東京都）で開催され、岩手県から36名、3団体が表彰されました。「厚生労働大臣表彰13名1団体、全国社会福祉協議会会長表彰21名1団体、中央共同募金会会長表彰2名1団体」式典後、「鶴と亀の生き方」と題し、作家・福聚寺住職玄侑宗久氏の記念講演が行われました。

